

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深めます。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

# MORIOKA YMCA NEWS

## 2013年4月号 4年間ありがとう。新たな道へ旅立つ卒業生



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
 TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: http://www.ymcajapan.org/morioka/

## 2月サンデースクール 万華鏡を作ろう！

2月24日(日)に、本町センターにて2月サンデースクール「世界に1つだけ！きらきら★万華鏡作り」を行いました。今回は、なんと！本格的な万華鏡制作キットを使って、オリジナルの万華鏡を手作りしちゃいました♪ ハードルリーダーが、丁寧にやって見せてくれた作り方をお手本にしながら、子ども達とリーダー達でわいわい楽しつつ制作を進めました。ひとりじゃ上手く作れない難しいところも、リーダーに手伝って貰えば大丈夫!!3枚の鏡を三角に組み合わせて万華鏡の筒の中にはめ込み、そのまま周りをのぞいてみると、みんなの顔がたくさん映り込んで見えました。ただそれだけでも、発見すると面白くて、何度も何度も覗き込んで周りを見て遊んだり、たくさんのビーズの中から悩みながら選んだものを筒の中に入れて、試しに回して見て、何度も調整してみたりと、子どもたちは時にわくわく、時に真剣な表情をしながら作っていました。完成に近づいてくると、お互いに作りかけの万華鏡を交換して見合っ、色んな感想が飛び交いました。筒の外側を素敵にデコレーションして、ようやく完成すると、改めて交換しあって見ました。同じ材料があっても、ひとりひとりの手にかかる、こんなに違うものができるのだなーとびっくりするほど色とりどりの万華鏡が出来上がりました。今回の万華鏡づくりは本格的なキットを使用しましたが、実は家にあるものだけで十分手作りすることが可能です。ぜひ家族で作ってみてください。参加して下さった皆さん、ありがとうございました!!



盛岡大学文学部社会文化学科4年 高橋みどり (ダダリーダー)

## 3月サンデースクール 火も包丁も使わない料理！

3月16日(土)、3月サンデースクール「火も包丁も使わない料理」が行われました。子どもの参加が14人、リーダーの参加が7名と大人数でのサンデースクールとなりました。今回作ったのはカップケーキとクレープ!カップケーキは、生地を紙コップに入れて、チョコレートなどのトッピングをします。レンジでチンするとみるみるうちに膨らんでいきます!みんな、膨らんでいくカップケーキに夢中でレンジから目が離せない様子でした。クレープは、ホットプレートで生地を薄く伸ばして皮を作ります。トッピングには、イチゴやみかん、パイナップル、桃、生クリームなどがあり、ついつまみ食いをしてしまう子(リーダーも!?)もいました!いただきますをしたら、それぞれクレープのトッピングをしていきます。生クリーム×イチゴと、王道のトッピングをする子もいれば、全種類をトッピングする食いしん坊もあらわれました!サンデースクールに初参加の子どもたちが多かったのですが、おいしい、楽しい3時間となりました。

文責：盛岡大学栄養科学部2年 澤口 菜 (おたまりリーダー)



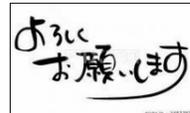
## 盛岡YMCAは今年30周年を迎えます ～盛岡YMCA30周年記念行事賛助会員募集～

盛岡YMCAは今年創立30周年を迎えます。今年10月26日に記念式典を開催致します。併せて、30周年を記念して「盛岡YMCA30周年の歩み」(仮称)の本を出版します。現在、30周年記念事業に向けて賛助会員を募集しております。

- ・一般賛助会員 一口 5,000円  
一口につき記念史1冊贈呈
- ・学生賛助会員 一口 2,000円  
一口につき記念史1冊贈呈

※郵便振替をご利用ください

口座番号 02290-9-54655  
加入者名 盛岡YMCA



※通信欄に「30周年」と明記ください。住所、氏名をご記入ください。

## 4月の予定

- ★4月6日(土)～7日(日)  
サッカー栃木遠征 (於：栃木県)
- ★4月19日(金)  
盛岡YMCA常議員会・理事会 (於：アイーナミーティングルーム)
- ★4月28日(日)  
4月アドベンチャー 「春を探しに行こう！」 (於：小鹿公園)

## ～表紙の写真より～



## 「1年間の宮古での活動を振り返って」

宮古ボランティアセンター センター長 大谷 昭雄

東北を中心とした沿岸地域に、未曾有の大津波が襲来した2011年3月11日。早いものであの日から2年が経ちましたが、ボランティアセンターが立ち上がってからの1年目と、昨年4月から私が駐在してから迎えた2年目では、時間の流れが変わってきているような気がします。ワークと呼ばれる重作業を中心に、復旧を目指してきた1年はあっという間に過ぎました。日を追うごとに町の様子も変わっていききました。しかし、ワークが終息してからの1年は、時間がゆっくり流れるようになり、短期間ではあまり変化が見られなくなりました。

仮設住宅の集会場などでは明るく振る舞っているようでも、家の中では未だに悲しみに暮れる毎日を過ごす人もいます。昼間の明るい時は良くても、夜ひとりで暗くして寝ようとする、震災の日の状況が目に見えて、怖くて眠れないという人もいます。見た目は元に戻ったようでも、心の傷は未だに癒えていないのだと、改めて実感させられます。これからは復興するまでには、まだまだ気の遠くなるような時間が必要です。

私も時々盛岡に用事で出かける事があるのですが、同じ県内でも沿岸の被災地との温度差を感じることがあります。震災の事を風化させないように、寄り添い続け、復興のための支援を継続していく重要性をこれからも訴え続けたいと思います。

被災地の様子は実際に来てみないとわかりません。まだ訪れることがないという方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度訪れて、その様子を直接肌で感じとっていただきたいと思います。また、一度や二度ではなく、何度も足を運んでいただきたいです。

まずは身近にいらっしゃる岩手県民の皆さんが盛り立てていくこと、被災地のことを忘れないことが重要です。これからも復興支援が継続されていくことを願っています。

最後になりますが、私、大谷は一年間の勤務を終え、3月末で横浜YMCAに帰任ということになりました。在任中はたくさんの方々にお世話になりました。これからは一人のボランティアとして、復興の様子を見守り続けたいと思います。

一年間本当にありがとうございました。

## 感謝

2013年3月25日現在  
順不同・敬称略

### ●東日本大震災被災地支援募金・献品

茨城YMCA、松尾聡子、山田京子、藤井辰夫、横浜西YMCA、日本キリスト教団つきみの教会、日本キリスト教団浦安教会、日本キリスト教団宮古教会、長谷川牧子、佐々木京子、名古屋恒彦、阿部毛糸店、スミ子、スワン美容室、佐藤ハナ子、吉田肉店、大森桂子、坂下信二、日本基督教団池田五月山教会、立教大学YMCA、大塚友美、清泉YMCA、泉北ワイズ、西宮ワイズ、日本基督教団林間つきみ野教会、日本基督教団番町教会、木下悦子、東矢高明、加藤様、藤原様、柴家様、北村千賀、竹内忠美、堺YMCA、リーダーOB会、社会福祉法人イエス団友愛幼児園、齋藤稜太、鬼柳忠彦、宇土澤光里、西村隆太、広瀬満和、広瀬香織、堺YMCA、名古屋恒彦、大関靖二、中山成子、増田隆、工藤泰、伊藤克見、熊谷力実、箕浦史郎、北田アユ子、川守田浩、光永尚生、菅恵、岩崎スエ、頌栄短期大学、朴正浩、清泉YMCA、YMCACA東つか保育園、なかのしまワイズ、西日本区メネット会、伊藤眞一郎

### ●維持会費

角谷晋次、角谷千代子、竹内一真、千葉代子、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、池田二郎、今松桂子、下坊和幸、熊谷力実、及川茂夫、及川恵、大関靖二、濱塚秋二、田村治之、工藤泰、重石桂司、伊藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、工藤直子、名古屋恒彦、水田賢次、千葉代子、阿部靖、北田アユ子、今野聖子、今野健男、清水治彦、岩崎スエ、宮崎幸雄、菊池崇江、伊藤眞一郎、南原良哉、小林茂元、朴正浩、長澤博真、長谷川精一、飯島隆輔、井上修三、井上優子、井上浩太郎、松尾聡子、石渡隆司、古澤伸、西村隆太、鳥居飛那、大山智輝、安藤大貴、土田悠太、川崎真尋、川崎小雪、松岡英樹、田中颯、遠藤幸誠、江口若菜、遠藤マキ子、豊田健太郎、直島カルメン、杉本凜、朝日拓馬、赤坂理輝、三浦颯太、佐々木愛見子、大内宏真、及川忠人、深澤秀男、深澤多紀子、大平譲、布川雅樹

### ●寄付金

角谷晋次、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、今松桂子、下坊和幸、熊谷力実、及川茂夫、及川恵、伊藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、水田賢次、今野聖子、今野健男、遠藤マキ子、菊池弘生、石渡隆司、東透、松岡英樹

# 感謝の気持ちを込めて

3月。ポカポカと暖かい日差しが降りそそぎ、少しずつ春を感じるようになる時期です。春の訪れを感じるのとても気持ちが良く、なんだか心まで温かくなりますが、少し寂しさを感じるのも3月です。盛岡YMCAでもそれぞれの大学を無事卒業し、新たな道を歩み始めるボランティアリーダーが5名います。大学生生活と両立し、4年間盛岡YMCAを支え続けてくれたリーダー達。キャンプ、アドベンチャー、サデースクール、水泳、サッカーなどなど、どの活動においてもリーダー達の存在は偉大なものでした。そんなリーダー達との別れはとて複雑なものです。「これからもずっと一緒に活動をしていきたい」という思いもありつつ、それぞれが抱く夢を掴み、新たな場所でもたくさんの方の力になってほしいという思いもあります。4年間、YMCAで頑張り続けてくれた皆さん可能だと信じています！

3月10日は別れを惜しみながら、後輩リーダーやワイズメンズの方々、そしてYMCAスタッフで卒業生を送り出しました。後輩リーダーからは感謝の気持ちを込めた記念アルバムと色紙が贈られ、ワイズメンズの方からは賞状が贈られました。また、卒業生からも後輩リーダーとスタッフに色紙を用意してくれていました。社会に出たならば必ず壁にぶつかることはあります。そんなとき、盛岡YMCAの仲間ならば、親身になって話を聞いてくれるでしょう。卒業しても盛岡YMCAはここにいます。みんなの居場所であるように。みんなのことを応援しています！

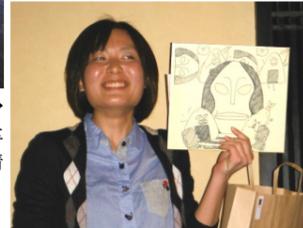
## ☆卒業生紹介☆

- 1号：盛岡大学文学部社会文化学科 高橋みどり（ダダリーダー）
- 2号：岩手県立大学看護学科 小野華奈（いもこリーダー）
- 3号：盛岡大学児童教育学科 齋藤将樹（王子リーダー）
- 4号：岩手県立大学総合政策学科 高橋慶多（博士リーダー）
- 5号：岩手県立大学総合政策学科 菅野駿弥（しゃもじリーダー）

家村



← 後輩リーダー達が工夫を凝らし、寝る間も惜しんで作成した力作のアルバムを見ていもこリーダーも感動です！



← 卒業生から後輩リーダーへ色紙を贈られました。



→ 卒業生からの贈り物に感動の涙！？



送別会の最後にみんなで記念撮影。



← 卒業生1号：高橋みどりことダダリーダー(中央) リーダーの中心的存在だったダダリーダー。全ての活動において大活躍！困った時はダダ！というほど信頼のおけるリーダーでした。

→ 卒業生2号：小野華奈こといもこリーダー(中央) キャンプ、アドベンチャー、サデースクールなどで活躍！天然キャラで場を和ませてくれます。



← 卒業生3号：齋藤将樹こと王子リーダー(左) キャンプやアドベンチャーで活躍！ぼっこりお腹がチャームポイントのリーダー。



← 卒業生4号：高橋慶多こと博士リーダー(右) 4年間水曜水泳を支え続けてくれました。



↑ 卒業生5号：菅野駿弥ことしゃもじリーダー(左) 博士リーダー同様、4年間水曜水泳を支え続けてくれました。



↑ ワイズメンズの方、スタッフなど、いろいろな人からの贈る言葉に別れを実感しました。



↑ 美女(?)に挟まれ、やや困惑気味の王子リーダー



← みんなほろ酔いで楽しい時間を過ごしました。

# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 3月報告書

3月に入ると宮古では暖かい日が増え、最高気温が10度を超える日が増えてきました。また、冬から春にかけては例年と比べても降雪が少なく、今月はまだ雪かきの作業がありません。全国的にも桜の開花宣言も早まっています。三陸沿岸地域では4月に入っても降雪があるため、まだまだ油断は出来ませんが、冬の入りがあった分、春の訪れがいつもより早い感じがします。

さて、決して忘れる事のないあの日が近づいてきました。東日本大震災から2年が経過しました。YMCAは、東日本大震災慰霊祭に関連するいくつかの行事に協力させていただきました。3月8日に宮古市立赤前小学校のふれあい広場で行われた赤前地区の東日本大震災慰霊祭終了後に、地域の方とお餅つき会と炊き出しを行いました。11日(月)の午後に、宮古市主催による合同慰霊祭が宮古市民総合体育館で予定されていたために、赤前地区では小学校の協力を得て、平日の8日(金)の実施となったそうです。

YMCAでは昨年と同様に、今年も地域の方に元気を出していただこうと、赤前小学校の先生方と赤前仮設住宅の自治会をお願いをして、炊き出しを行わせていただきました。また、継続的な支援先である日の出町仮設住宅では、様々な事情で11日(月)の合同慰霊祭に参加されない方、できない方がいらしたために、YMCAで何かお手伝いできる事はないかと自治会に相談をしたところ、「皆さんでおしゃべりする会をしましょう。」ということで、その日の午後にお茶の会を開きました。

開催については、「確かに2年前の出来事は忘れる事は出来ませんが、前を向いて進むことが大切ですから。」と副会長さんよりご快諾をいただきました。ただし、参加については無理のない範囲でということで地域に参加を呼びかけました。当日は、午後2時46分に宮古市防災行政無線による放送に合わせて、参加者全員で黙祷の時間をもちました。お茶の会では歌やお話を楽しみ、希望を持って歩いていくことを誓い合いました。

YMCAは、これからも皆さんに寄り添いながら一緒に歩いてまいります。新年度からはスタッフ体制が変わりますが、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの活動はこれからも継続されていきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

宮古ボランティアセンター長 大谷



→ 小学生にも餅つきを体験していただきました。



→ 炊き出しが始まりました。行列の横でお餅をこねていきます。



↑ お餅を待つ行列です。



↑ 赤前地区の慰霊祭です。献花をして犠牲になった方へ祈りを捧げます。



↑ 全校生徒による合唱です。



↑ 二中仮設住宅のお茶会。皆さん歌が大好きです。

## 宮古での活動実績 (1月末日のべ人数)

- ☆受益者数 53,678人
- ☆ボランティア数 17,074人

## 第2回 盛岡YMCA ふれあい交流事業 東日本大震災復興支援 フットサル大会

昨年に引き続き、第2回目となった「盛岡YMCAふれあい交流事業 東日本大震災復興支援 フットサル大会」は3月23日、盛岡市の県営体育館で開かれ、沿岸部と盛岡地域の小学生がフットサルを通して交流を図りました。沿岸部からはFC宮古フェニックス、花輪、FC釜石、大船渡・三陸FCが、盛岡地区からは月が丘、仙北、アントス、上田、松園、YMCAが参加しました。試合となると急に真剣な面持ちになる子どもたち。必死にボールを追い、全力のプレーを見せてくれました。

また、本大会では様々なチームとの交流のきっかけにと人型のカードに似顔絵やメッセージを書き、岩手県を描いた用紙に手をつなぎ合わせた状態で貼りあわせていくという合同製作を行いました。カードには盛岡地域の子どもたちが復興を応援するものや、沿岸部の子どもたちから支援に対する感謝の気持ちを述べたものなど思いがこもったカードがたくさん描かれていました。

将来、今の子どもたちが大人になったときにこのメッセージのようにたくさんの人たちと手を取り合って、この岩手を支えていってほしいと願います。

家村



← 個性豊かなカードたち。世界にたった1つのカードです。



← 集合写真。これからの岩手を支えていってくれる子どもたちです。↓

